

NEJIREBANE, No. 83, 15. Jun., 1999

## 和歌山県産コメツキムシの記録

岸井 尚

〒569-1044 高槻市上土室1丁目 10-6-410

和歌山県はその古名“きのくに”が示すように、平地が少なく著名な多雨の山地がその大半を占めるうえに、長い海岸線は黒潮の影響を強く受けた温暖帯林に被われ、いわゆる照葉樹林を構成する植物群が繁栄しているため、コメツキムシ相もまたそれらの影響を強く受けている。和歌山昆虫研究会の機関誌“KINOKUNI” No.46 (1994)が発行されたが、その中で記録されたコメツキムシ科甲虫の種数は144種であり、同報告中でカミキリムシ(276種)、ハムシ(174種)、ゴミムシ(157種)に次ぐ種類数である。これは他のグループに比べるとよく解明されている方であるが、他府県の分布相や私の手元にある資料からは少なくとも200種前後は分布するものと思うのと、これまでの調査地域が幾分偏り気味でないかとも思うので一層の調査が望まれる。

今回、和歌山県由良町の吉田元重氏のご厚意で、同氏がこれまで広く和歌山県下各地から採集されたコメツキムシの同定をさせていただいた。種数は87種とやや少ないものであったが、新種と見られるものと未記録と思われるものがそれぞれ複数種あり、またその採集地域が県下全域にわたるものなので、その全容を記録しておくのは有意義なことと思う。なお、新しいものについては更に精査のうえ、昆虫学評論誌上で記載発表をしたいと思っている。また、依頼を受けた標本中には和歌山県以外の地域のものもあったが、これらは今回の報告からは除いてある。採集者名は吉田氏の場合は省略し、それ以外の方のみ記録し、産地名はラベル記載に従った。

資料発表の機会を与えていただいた吉田元重氏のご厚意に深く感謝するものである。

AGRYPNINAE サビキコリ亜科: Agrypnini サビキコリ族

*Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* MOTSCHULSKY, 1861 サビキコリ

白浜町富田川 (1♀, 5.VII.1980)

*Agrypnus (Sabikokorius) fuliginosus* (CANDÈZE, 1865) ホソサビキコリ

有田市地の島 (1♂, 31.V.1997); 川辺町日高川 (1♂, 13.V.1979)

*Agrypnus (Colaulon) scrofa scrofa* (CANDÈZE, 1873) ヒメサビキコリ

美山村八斗蒔峠, (1 ex., 27.VI.1984); 大塔村三川ダム (2 exs., 14.V.1980)

*Agrypnus (Colaulon) hypnicola* (KISHII, 1964) コガタヒメサビキコリ

和歌山市友ヶ島 (1 ex., 22.III.1982)

従来の記録は、平松(1977)による和歌山市湊からのもののみである。

*Agrypnus (Colaulon) tsukamotoi tsukamotoi* (KISHII, 1956) ハマベオオヒメサビキコリ

和歌山市友ヶ島 (1♂, 23.VII.1982); 広川町鷹島 (1 ex., 9.V.1971)

和歌山からはこれまでに、由良町・御坊市・孔島・大島などの海浜地域に分布が知られている。

AGRYPNINAE サビキコリ亜科: Adelocerini サビコメツキ族

*Adelocera (Brachylacon) difficilis* (LEWIS, 1894) シロオビチビサビキコリ

御坊市丸山 (1 ex., 12.VI.1990); 本宮町大塔谷 (1♂, VII.1995); 白浜町日神社 (1♀, 16.VII.1997); 大塔村マサキ谷 (1 ex., 27.V.1973); すさみ町江須崎 (3 exs., 12.VI.1998)

*Lacon (Alaotypus) maeklinii maeklinii* (CANDÈZE, 1865) オオサビコメツキ

大塔村夫婦の滝 (1♀, 31.VII.1983); すさみ町宮城谷国有林 (1♂, 17.VII.1982)

AGRYPNINAE サビキコリ亜科: Chalcolepidiini ウバタマコメツキ族

*Cryptalaus berus* (CANDÈZE, 1865) ウバタマコメツキ

古座川町檜山 (2♀♀, 3.VI.1994)

*Cryptalaus larvatus pini* (LEWIS, 1894) フタモンウバタマコメツキ

古座川町檜山 (1♀, 3.VI.1994)

AGRYPNINAE サビキコリ亜科: Hemirhipini オオクシヒゲコメツキ族

*Tetrigus lewisi* CANDÈZE, 1873 オオクシヒゲコメツキ

花園村久木 (1♂, 19.VII.1990); 美山村八斗蒔峠 (1♀, 26.VII.1965)

AGRYPNINAE サビキコリ亜科: Oophorini チビコメツキ族

*Prodrasterius agnatus* (CANDÈZE, 1873) マダラチビコメツキ

和歌山市大池 (1♀, 24.IX.1962); 広川町西広 (1♂, 24.III.1962); 田辺市 (1 ex., 30.IV.1964)

従来用いられていた属名 *Aeoloderma* は、大平(1994)の研究により上記のように変更されている。また族の名称はこれも永く *Conoderini* (*Conoderinae* FLEUTIAUX, 1919) が用いられてきたが、これも最近 SANCHEZ-RUIZ (1996) により、GISTEL (1856)の創設した OOPHORIDAE が復活使用されたために変更されたものである。

HYPNOIDINAE ヒサゴコメツキ亜科: Hypnoidini ヒサゴコメツキ族

*Homotechnes brunneofuscus* (NAKANE, 1954) チャグロヒサゴコメツキ

中辺路町果無山系 (1♀, 21.VII.1996, 後藤伸)

属名としては永く *Hypolithus* が用いられてきたが、筆者(1993)が指摘したように、この属の基本種である *Hypolithus littoralis* ESCHSCHOLTZ, 1829 は多くの点で本種 *brunneofuscus* や *motschulskyi* (ミ

ヤマヒサゴコメツキ)とは異なり, 別属のものであることに何らの疑念もないと思う。しかし中国南部に分布する *Homotechnes* 属の基本種 *H. corymbitoides* CANDÈZE, 1882 とは極めてよく類似した特徴を持つので, この属に含められるのが最も妥当なものと思う。

*Ascoliocerus saxatilis saxatilis* (LEWIS, 1894) ヒラタクロコメツキ  
花園村久木(2♂♂, 1♀, 19.VII.1990)

DENDROMETRINAE カネコメツキ亜科: Dendrometrini カネコメツキ族

上記の亜科名および族名もまたチビコメツキ族のところで触れたように, SANCHEZ-RUIZ (1996) の研究により, GISTEL (1856)のDENDROMETRIDAEが復活されたことによるものである。

*Nothodes marginicollis* (LEWIS, 1894) ウスチャイロカネコメツキ  
中辺路町果無山系(1♀, 22.VII.1995)

*Limoniscus yamato* KISHII, 1998 ヤマトカネコメツキ (写真1)

龍神村護摩ノ壇山(1♂, 24. VI. 1997); 中辺路町果無山系(2♂♂, 23.V.1995); 本宮町大杉谷(1♂, 28. V. 1972)

従来 *L. niponensis* (LEWIS, 1894) の名称で記録されていたものであるが, この種は少なくとも北海道に分布するものに有効で, 本州や四国に分布する個体群の殆どはこの *niponensis* によく似た別種 *hinakurai* と上記

の *yamato* の2種に分割されるものと思う。なお, 護摩ノ壇山からは別種でよく似た *hiramatsui* も知られており, 同定は困難である。更に最近, 筆者の元に送られた三重県産の資料中にはこれらとも異なる, 多分未記載と見られる種があるので, これらの分類同定は細心の注意を必要とする。なお, 写真に示したものは護摩ノ壇山のものである。

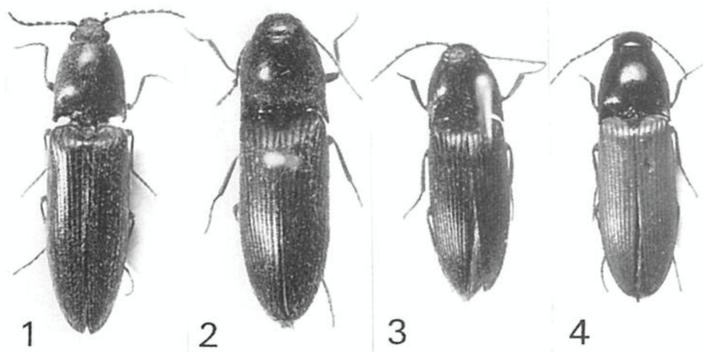


写真1-4: 1. ヤマトカネコメツキ; 2. フトナガコメツキ; 3. アメイロコメツキ  
4. アカコメツキの一種。

*Limoniscus rufipennis* (LEWIS, 1894) ハネアカカネコメツキ  
熊野川町大倉畑山(1 ex., 20.VIII.1990)

*Limoniscus vittatus* (CANDÈZE, 1873) タテスジカネコメツキ  
花園村久木(1♂, 24.V.1990); 由良町ごんげん山(1♀, 29.IV.1994); すさみ町伊古木(1♂, 25. IX.1990)

DENDROMETRINAE カネコメツキ亜科: Denticollini ベニコメツキ族

*Denticollis nipponensis nipponensis* ÔHIRA, 1973 ベニコメツキ  
大塔村富里(1♂, 23.III.1981)

DENDROMETRINAE カネコメツキ亜科: Athoini ツヤハダコメツキ族

*Stenagostus umbratilis* (LEWIS, 1894) オオツヤハダコメツキ  
高野町高野山(1♀, 24.VII.1995); 美山村八斗蒔峠, (1♀, 27.VII.1984)  
*Scutellathous* sp. ホソアカツヤコメツキ (仮称)

龍神村護摩ノ壇山(1♂, 28.VII.1955, 後藤伸; 1♂, 30.VII.1956, 後藤伸)

珍しい種でないが、現在この種に対する適格名がなく、新名が必要なものである。“和歌山県産甲虫類既報の整理”でも同じ扱いになっている。

*Medakathous jactatus jactatus* (LEWIS, 1894) メダカツヤハダコメツキ

龍神村護摩ノ壇山(1♂, 24.VII.1952; 1♂, 28.VII.1962); 本宮町大杉尾根(1♂, 25.VII.1972)

*Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus secessus* (CANDÈZE, 1873) クロツヤハダコメツキ

貴志川町(1ex., 15.V.1980); 由良町ごんげん山(1♀, 22.VI.1994); 龍神村小森谷(1♀, 6.VII.1981); 中辺路町果無山系(1♀, 17.VII.1995); 本宮町大杉黒蔵谷(1♀, 28.VI.1981, 後藤伸); 白浜町(1♀, 12.VII.1993); 日置川町安宅(1♀, 28.VII.1993); 上富田町高畑山(1♂, 27.VI.1994); 大塔村夫婦の滝(1♂, 31.VII.1983); 熊野川町大倉畑山(1♀, 20.VIII.1990); 熊野川町上瀬(1♀, 16.VII.1993); 串本町大島(1♀, 31.VII.1990)

*Hemicrepidius (Hemicrepidius) sinuatus sinuatus* (LEWIS, 1894) コクロツヤハダコメツキ

高野町高野山(1♀, 24.VII.1995); 龍神村針尖岳(1♂, 22.VII.1981); 龍神村護摩ノ壇山(1♀, 28.VII.1951); 中辺路町果無山系(1♂, 21.VII.1996, 後藤伸)

本種も“和歌山県産甲虫類既報の整理”では見あたらないが、本種はかつて前種のシノニムとされていた期間が長く、そのため *secessus* として報告されていたものに本種が入っていたことも考えられる。これも半島山地では、少なくとも奈良・三重からは採集機会の多いものであるが、この2種の分類上の扱いには異論もあり、同種内の変異に過ぎないという観点に立つ研究者も少なくない。

*Hemicrepidius (Hemicrepidius) desertor desertor* (CANDÈZE, 1873) ヒメクロツヤハダコメツキ

美山村西ノ河(1♂, 26.VII.1968); 龍神村護摩ノ壇山(1♀, 28.VII.1951); 中辺路町果無山系(1♂, 22.VII.1995); 大塔村(1♀, 15.VII.1962)

*Hemicrepidius (Miwacrepidius) subcyaneus* (MOTSCHULSKY, 1866) ルリツヤハダコメツキ

大塔村富里(1♀, 9.VII.1981); 白浜町蛭底谷(1♀, 12.VII.1993)

#### DENDROMETRINAE カネコメツキ亜科: Prosternini ヒラタコメツキ族

*Corymbitodes gratus* (LEWIS, 1894) ドウガネヒラタコメツキ

日置川町伊古木(2♀♀, 25.IV.1990)

*Eanoides puerilis* (CANDÈZE, 1873) シリプトヒラタコメツキ

粉河町葛城山(2♂♂, 28.V.1997); 龍神村護摩ノ壇山(1♂, 2.V.1956, 後藤伸)

*Actenicerus pruinosus* MOTSCHULSKY, 1861 シモフリコメツキ

粉河町葛城山(1♂, 28.V.1997); 金屋町白馬山(1♀, 11.V.1997); 由良町(1♀, 23.VI.1950); 川辺町大滝川(1♂, 4.VII.1965); 龍神村護摩ノ壇山(1♂, 23.V.1974; 1♂, 24.VI.1997); 本宮町黒蔵谷(1♂, 7.V.1972)

*Actenicerus aerosus aerosus* (LEWIS, 1879) ヘリアカシモフリコメツキ

龍神村護摩ノ壇山(1♂, 24.VII.1952; 1♂, 23.V.1974); 本宮町大杉谷(1♂, 28.V.1972; 1♀, 27.V.1975); 大塔村安川溪谷(1♂, 2.V.1974)

*Acteniceromorphus tengu* (MIWA, 1934) テングフトヒラタコメツキ

九度山町(1♂, 24.IV.1991)

そんなに多い種でないが、平松(1977)が護摩ノ壇山から多くの個体を得ている。

*Neoprstilophus serrifer serrifer* (CANDÈZE, 1873) アカヒゲヒラタコメツキ

日置川町安宅(1♂, 11.V.1993; 1♂, 19.V.1993)

## ELATERINAE コメツキ亜科: Megapenthini ツヤケシコメツキ族

*Gamepenthesis versipellis* (LEWIS, 1894) メスアカキマダラコメツキ

美山村西ノ河(1♂, 25.VII.1965); 龍神村護摩ノ壇山(1♀, 7.VIII.1965)

*Agaripenthesis helvolus* (CANDÈZE, 1873) ヒメホソキコメツキ

日高町串(1♀, 12.X.1990)

*Hayekpenthesis pallidus pallidus* (LEWIS, 1894) ホソキコメツキ

美山村西ノ河(1♂, 26.VII.1965)

*Ectamenogonus robustus* (KISHII, 1966) フトナガコメツキ(写真2)

貴志川町国主(1♂, 16.VIII.1982)

同属の *E. plebejus* コナガコメツキは記録されているが、本種の報告例は見あたらない。互いによく似ているが、触覚第2・3節の形状とその長さおよび雄生殖器構造の著しい差により区別は容易である。本種の所属については *Penthetaler* が暫く使われてきたが、最近の G. PLATIA からの私信によれば、基本種との検討の結果、これは *Ectamenogonus* 属の種に間違いのないことである。

## ELATERINAE コメツキ亜科: Ampedini コメツキ族

*Reitterelater rugipennis* (LEWIS, 1894) アラハダチャイロコメツキ

由良町衣奈八幡(1♂, 13.V.1993)

“和歌山県産甲虫類既報の整理”では見あたらないが、和歌山からは既に梅本(1973)および場・平松(1974)による報告例があるので、単純な記録漏れであろう。本種の属名としてはこれまで *Ectamenogonus* が安定的に用いられてきたが、前種の項でも触れたように、この扱いは妥当性を欠き別属とすべきであるとして、PLATIA et CATE(1990)によりヨーロッパ産の *Elater fulvus* REITTER, 1891 を基本種として新設された属に含められることになったものである。

*Kometsukia vesticornis* KISHII, 1957 アメイロコメツキ(写真3)

高野町高野山(1♂, 7.VIII.1983)

鳥取県の大山からの資料に基づき記載されて以来、現在までに北海道から対馬・屋久島までの広い地域での分布が知られているが、稀な種に属するものといえよう。これまでの記録では殆どが燈火採集によるものようで、複数個体が採れた例は極めて少ない。筆者の経験では1973年7月、岐阜県奥美濃地方の水無溪谷での夜間採集で4雄個体が得られたくらいである。紀伊半島では三重・奈良からの記録があるのみであった。

*Ampedus* (subgen.?) *carbunculus* (LEWIS, 1879) ヒメクロコメツキ

粉河町竜門山(1♀, 28.V.1955, 後藤伸); 由良町阿戸(3♀, 12.V.1993); 由良町衣奈八幡(2♂♂, 13.V.1993); 日高町柏(1♀, 30.IV.1995); 中津村小谷口(1♀, 30.V.1994); 本宮町大杉谷(1♀, 3.V.1973); 白浜町瀬戸(1♂, 12.IX.1982); 日置川町伊古木(2♀♀, 25.IV.1990); すさみ町琴ノ滝(1♀, 13.IV.1993); すさみ町佐本(旧佐本村)(1♂, 10.VI.1953, 後藤伸)

*Ampedus* (*Ampedus*) *orientalis* (LEWIS, 1894) アカコメツキ

中津村小釜本(1♀, 19.IV.1994)

*Ampedus* (*Ampedus*) sp. アカコメツキの一種(新種の可能性大)(写真4)

串本町里野(1♀, 18.I.1992)

京都市鞍馬山原産の *A. kurama* またはヨーロッパに分布する *A. pomorum* に近い感じのする種であるが、未記載種と思われ、精査のうえ改めて報告したい。

*Ampedus* (*Ampedus*) *japonicus japonicus* SILFVERBERG, 1977 アカアシクロコメツキ

美山村八斗蒔峠(1♀, 24.VI.1973); 中辺路町果無山系(1♀, 23.V.1995; 1♂, 17.VII.1995; 1♀, 22.VII.

1995); 本宮町黒蔵谷(1♂, 21.VII.1970); 本宮町大杉谷(1♀, 7.V.1972)

*Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (CANDÈZE, 1873) アカハラクロコメツキ

貴志川町(1♀, 15.V.1980); 高野町高野山(1♀, 24.VII.1995); 花園村久木(1♀, 19.VII.1990); 由良町阿戸(2♀♀, 12.V.1993); 由良町衣奈八幡(1♀, 13.V.1993); 広川町靈巖寺(1♀, 8.VI.1997); 日高町柏(1♂, 30.IV.1995); 御坊市明神川(1♀, 2.V.1993); 大塔村下川上(1♀, 18.VI.1993); 古座川町古川(1♀, 16.VI.1981); 古座川町檜山(1♂, 3.VI.1994); 古座川町池野山(1♀, 31.V.1995)

*Ampedus (Ampedus) ivanovi* (JAKOBSON, 1913) クロコメツキ

広川町津木(1♀, 28.IV.1992)

和歌山からは護摩ノ壇山からの記録があるのみだが、紀伊半島では少ないものではない。しかし類似種が多いので、同定には注意が必要である。

*Ampedus (Ampedus) vestitus vestitus* (LEWIS, 1894) ケブカクロコメツキ

大塔村大杉谷(1♂, 28.V.1972); 熊野川町大倉畑山(1♂, 20.VIII.1980; 1♂, 10.VI.1990); 古座川町小森川(1♂, 5.V.1981)

*Ampedus (Ampedus) tenuistriatus tenuistriatus* (LEWIS, 1894) ホソクロコメツキ

粉河町葛城山(1♀, 28.V.1997); 龍神村護摩ノ壇山(1♀, 23.V.1994)

*Ampedus (Ampedus) tamba* KISHII, 1976 タンバコクロコメツキ

花園町久木(1♀, 24.V.1990)

ELATERINAE コメツキ亜科: Agriotini カバイロコメツキ族

*Dalopius tamui* KISHII, 1957 ホソナカグロヒメコメツキ

龍神村護摩ノ壇山(1♀, 21.VI.1989, 後藤伸); 中辺路町果無山系(1♂, 22.VII.1995); 本宮町大塔(1♂, 28.VI.1995)

*Dalopius* sp. ヒメコメツキの一種(写真5)

龍神村護摩ノ壇山(2♂♂, 24.VII.1952)

紀伊半島の山地では前種にまじって度々採集される。上翅が一樣な茶褐色のもので、体色変異と見ていたが、独立の別種と見なすべきものである。他の地域からもよく似たものが採れており、それとの関連を含め検討しているところである。



5



6



7

写真5-7: 5. ヒメコメツキの一種; 6. ニセクチボソコメツキ; 7. マルクビクシコメツキ。

*Ectinoides insignitus insignitus* (LEWIS, 1894) ヨツ

キボシコメツキ

田辺市伏菟野(1 ex., 16.VI.1994)

*Ectinus higonius* (LEWIS, 1894) クロムナボソコメツキ

中津村小谷口(1 ex., 30.V.1994); 美山村八斗蒔峠(3 exs., 27.IV.1997); 中辺路町兵生(1♂, 26.IV.1972)

*Ectinus puberulus* (MIWA, 1928) キンケオオカバイロコメツキ

高野町高野山(1♂, 24.VII.1995)

ELATERINAE コメツキ亜科: Elaterini コメツキ族

*Nipponoelater sieboldi sieboldi* (CANDÈZE, 1873) オオナガコメツキ

高野町高野山(1♂, 7.VIII.1983); 南部町千里(1♀, 18.VII.1990); 田辺市稲荷(1♀, 16.VIII.1995); 中辺路

町兵生(1♂, 27.VII.1992); 古座川町平井(3♂♂, 3.VIII.1992)

*Mulsanteus junior junior* (CANDÈZE, 1873) ヒゲナガコメツキ

有田市地ノ島(1♀, 31.V.1997); 田辺市元島(1♀, 22.V.1997)

本種には永く *Neotrichophorus* の属名が使用されてきた。これは JAKOBSON (1913) によるもので、MULSANT et GODART (1853) の創設した *Trichophorus* は、既にSERVILLE (1834) によりカミキリムシ科に先取されているという理由で置換名として新設したものである。しかし最近の SANCHEZ-RUIZ (1996) の研究によると、同じ理由で既にGOZIS (1875) により *Mulsanteus* なる置換名が提唱されていることが分かり、上記のようになった。

*Vuilletus viridis* (LEWIS, 1894) ミドリヒメコメツキ

高野町高野山(1♀, 29.IV.1966, 後藤伸)

*Vuilletus subopacus* (NAKANE, 1959) コミドリヒメコメツキ

粉河町(1♂, 10.IV.1951; 1♀, 16.IV.1951; 1♂, 10.VII.1951; 1♀, 16.VII.1951)

邦産のミドリヒメコメツキ類の分類については異論が色々あり、多少混乱しているように思う。ゲニタリア構造も各地個体群間の差異がほとんどないので、すべてが同じ種個体群であり、前胸背板上の点刻などの違いは個体変異に過ぎなく、分化の初期に当たるものというような見方もある。しかし、この前胸背板点刻の状態は比較的よく固定化されており、その中間的な状態のものは殆ど見られず、少なくとも同一地域で同じ時期に判定不明の個体が得られたという経験が筆者にはないので、それぞれ別種扱いにしておく方が分かり易いものと思う。

*Dolerosomus gracilis* (CANDÈZE, 1873) キバネホソコメツキ

貴志川町(1♂, 16.VIII.1980); 金屋町黒沢山(1♀, 16.V.1971; 1♂, 29.IV.1972); 金屋町栗生(1♂, 13.IV.1994); 花園村久木(1♀, 24.V.1990); 由良町阿戸(1♂, 12.V.1993); 中辺路町果無山系(1♀, 23.V.1995); 白浜町蛭底谷(1♀, 24.VI.1993)

#### ELATERINAE コメツキ亜科: Synaptini ニセムナボソコメツキ族

*Silesis musculus musculus* CANDÈZE, 1873 クチプトコメツキ

高野町高野山(1♀, 24.VII.1995); 美山村八斗蒔峠(1♀, 4.VI.1993); 白浜町蛭底谷(1♀, 12.VII.1993; 1♀, 24.VII.1993)

*Glyphonyx bicolor bicolor* CANDÈZE, 1873 キバネクチボソコメツキ

白浜町蛭底谷(1ex., 28.VIII.1981; 2exs., 12.VII.1993); すさみ町江須崎(6exs., 12.VI.1998)

*Glyphonyx illepidus* CANDÈZE, 1873 クチボソコメツキ

龍神村護摩ノ壇山(1♂, 28.VII.1952, 後藤伸; 1ex., 2.VIII.1957, 後藤伸)

*Kinokunia yoshidai* KISHII, 1998 ニセクチボソコメツキ (写真6)

日高町串(1♂, 21.V.1991; holotype)

一見して本邦未知のコメツキムシであることが明瞭な標本で、大変驚いた。ただ土地柄、ひよつとすると外材などによる外来偶産のものかなという疑念もあり、色々調べてみたが当てはまるようなものは皆無で、しかも一般的には *Glyphonyx* 属に近い体制をもつが、異なる属であることも明らかであった。最近新属新種として著者によって記載された。

#### MELANOTINAE クシコメツキ亜科

*Melanotus legatus legatus* CANDÈZE, 1860 クシコメツキ

和歌山市加太(1♀, 21.VI.1993); 高野町高野山(1♀, 24.VII.1995); 有田市地の島(1♂, 31.V.1997); 金屋町白馬山(1♂, 30.VI.1997); 花園村久木(1♂, 19.VII.1990); 由良町(1♂, 24.V.1968); 由良町衣奈八幡(2

♂♂, 13.V.1993); 由良町吹井(2♂♂, 14.VI.1990); 広川町靈巖寺(1♂, 29.V.1982); 中津村坂本(1♂, 4.VI.1991); 中津村三十井川(1♀, 22.VI.1993); 中津村小津茂(1♂, 1.V.1994); 龍神村護摩ノ壇山(1♂, 30.VI.1981, 後藤伸); 印南町稲原(1♂, 10.V.1990; 1♂, 10.VI.1990); 白浜町(1♂, 27.V.1981; 1♂, 30.V.1981); 大塔村富里下川上(1♂, 30.V.1981); 大塔村三川ダム(1♂, 14.V.1980); 熊野川町上瀨(1♀, 16.VII.1993); すさみ町大間川(1♂, 23.V.1993); 古座川町平井(1♂, 2.VIII.1992); 串本町大島(1♂, 31.VII.1990)

*Melanotus lewisi lewisi* SCHENKLING, 1927 ルイスクシコメツキ

和歌山市(1♂, 17.VII.1995); 貴志川町国主(1♂, 6.VIII.1982); 御坊市湯川町(1♂, 29.VI.1981); 本宮町大塔谷(1♂, 7.VII.1995); 大塔村富里(1♂, 29.VII.1981; 1♀, 6.VIII.1982); 古座川町平井(1♀, 2.VIII.1992)

*Melanotus correctus correctus* CANDÈZE, 1865 ヒラタクシコメツキ

金屋町黒沢山(1♂, 16.V.1971); 金屋町白馬山(1♂, 11.V.1997); 中津村小津茂(1♂, 1.V.1994); 本宮町黒蔵谷(1♂, 8.V.1981)

*Melanotus legatoides* KISHII, 1975 ヒメクシコメツキ

金屋町白馬山(1♂, 19.IV.1997); 花園村久木(1♀, 24.V.1990)

*Melanotus senilis senilis* CANDÈZE, 1865 クロクシコメツキ

中津村小谷口(1♂, 30.V.1994); 中辺路町果無山系(1♀, 22.VII.1995); すさみ町すさみ川(1♂, 19.V.1993)

*Melanotus annosus* CANDÈZE, 1865 クロツヤクシコメツキ

粉河町葛城山(3♂♂, 28.V.1997), 美浜町煙樹ヶ浜(1♀, 20.V.1981); 本宮町黒蔵谷(1♀, 28.VI.1981, 後藤伸); 古座川町(1♂, 9.V.1981)

*Melanotus spernendus spernendus* CANDÈZE, 1873 ナガチャクシコメツキ

中津村小津茂(1♀, 1.V.1994)

*Melanotus fortnumi fortnumi* CANDÈZE, 1878 マルクビクシコメツキ (写真7)

粉河町葛城山(1♀, 28.V.1997); 金屋町生石山(1♀, 4.XI.1970); すさみ町すさみ川(2♂♂, 19.V.1993). この種は“和歌山県産甲虫類既報の整理”には載っていないが, 大平(1992)の研究により LEWIS(1879)が和歌山を基産地として記載した *Melanotus caudex* (この名称でも載せられていない) が本種のシノニムとされたので, 初記録とはならないが他には報告例がなく, 上記のものが LEWIS 以来の再記録となる, なお, 筆者(1957)が“AKITU”で記録した那智原生林からのコメツキムシの中に次種が16頭あるが, その後の研究課程で2頭の本種が混入していたことが判明しており, 訂正の機会が延び延びになっていたので下記のように訂正記録しておく.

AKITU, VI:(1957) 86, line 15, Specimens examined: 6 exs., 3.V. とあるのを次の2種に訂正分割する.

内 4 exs.: *Melanotus erythropygus erythropygus* CANDÈZE, 1873 コガタクシコメツキ

内 2 exs.: *Melanotus fortnumi fortnumi* CANDÈZE, 1878 マルクビクシコメツキ

*Melanotus erythropygus erythropygus* CANDÈZE, 1873 コガタクシコメツキ

粉河町葛城山(1♂, 28.V.1997); 金屋町黒沢山(1♂, 16.V.1971); 本宮町大杉谷(1♀, 28.V.1974); 大塔村(2♂♂, 18.V.1981); 日置川町伊古木(1♂, 25.IV.1990); すさみ町大間川(1♂, 24.V.1993)

*Spheniscosomus cete cete* (CANDÈZE, 1860) アカアシオオクシコメツキ

粉河町葛城山(1♂, 1♀, 28.V.1997); 貴志川町(1♂, 10.VIII.1980); 海南市藤白峠(1♀, 8.VII.1970); 有田市地ノ島(1♂, 3.V.1984); 金屋町黒沢山(1♀, 16.V.1971); 金屋町生石山(1♀, 13.V.1993); 由良町阿戸(1♂, 12.V.1993); 御坊市亀山(1♂, 29.IV.1970); 御坊市丸山(1♀, 12.VI.1990); 田辺市元島(1♂, 22.V.1997); 白浜町(2♂♂, 30.V.1981)

## NEGASTRIINAE ミズギワコメツキ亜科

*Odestethus telluris* (LEWIS, 1879) クロツヤミズギワコメツキ

貴志川町(1 ex., 15.V.1980); 白浜町富田川(1 ex., 5.VII.1980)

*Fleutiauxellus (Migiwa) tutus* (LEWIS, 1894) キアシミズギワコメツキ

中辺路町果無山系(1♀, 22.VII.1995); 大塔村木守(1♂, 12.VIII.1952); 白浜町蛭底谷(2exs., 12.VII.1993); 古座町重畳山(1♀, 6.IV.1994)

*Fleutiauxellus (Migiwa) insulsus* (CANDÈZE, 1873) クロミズギワコメツキ(写真8)

大塔村木守(2♂♂, 1♀, 12.VIII.1952); 大塔村富里(1♂, 12.VIII.1965); すさみ町佐本(旧佐本村)(1♂, 31.V.1953, 後藤伸); 古座川町松根(1♂, 3♀♀, 14.VII.1962)

*F. niponicus* (KISHII, 1957) ニホンミズギワコメツキによく似ているが、触覚の状態と体色が、一般にやや赤褐色を帯びることなどで区別できる。和名の表現から全体が黒色のものをイメージすることが多いと思う。脚部も黄褐色部が多く、この和名はどうも不適當な感じがするが、変更して混乱を生ずるのも考え物なので、現状の扱いのままとしたい。和歌山からの記録はないが、上記のように広く分布している。

*niponicus* は和歌山からの記録はあり、筆者(1976)が邦産のNEGASTRIINAEの分布表を作成したとき触れたが、詳細なデータは載せてい



8



9



10

写真8-10: 8. クロミズギワコメツキ; 9. ババチビマメコメツキ; 10. ヘリマメコメツキ。

なかったので、ここで記しておきたい(和歌山県那智原生林:11♂♂, 6♀♀, 3-4.V.1957, H.長谷川・井上宗二)なお、本種も“和歌山県産甲虫類既報の整理”には記録されていないが、最近の平松広吉氏からの私信で分布が確認されているとのことであった。

*Fleutiauxellus (Migiwa) curatus curatus* (CANDÈZE, 1873) ミズギワコメツキ

中辺路町水上(1♂, 3.VII.1991)

*Quasimus babai* KISHII, 1970 ババチビマメコメツキ(?) (写真9)

中辺路町果無山系(1♂, 9.VII.1994)

次種によく似ているが、体形や小楯板上の凹陷部の形状で、その前縁が明らかに小楯板の前縁に接することなどで区別できる。最近、大平博士(1998)が“福井虫報”のNo.22でこの種の解説をされたが、それには分布記録として青森・秋田・新潟・石川・福井・愛知・徳島があげられている。今回検した果無山系の雄資料は1頭のみで、ホロタイプ標本とは僅かな相違点を持つのみで、その形態の殆どは一致する。

*Quasimus japonicus* KISHII, 1959 ニホンチビマメコメツキ

和歌山市加太(1♀, 21.VI.1993)

*Quasimus ovalis* (CANDÈZE, 1860) マルマメコメツキ

熊野川町大倉畑山(1 ex., 20.VIII.1980)

*Yukoana elliptica* (CANDÈZE, 1860) ヘリマメコメツキ(写真10)

中辺路町果無山系(1♀, 9.VII.1994)

*Yukoana carinicolis* (LEWIS, 1894) ヘリムネマメコメツキ

中辺路町果無山系(1♀, 22.VII.1995); 古座川町檜山(1♀, 3.VI.1994)

*Yukoana terukoe* KISHII, 1961 ホソマメコメツキ  
本宮町大塔谷(1♂, 28.VI.1994)

CARDIOPHORINAE ハナコメツキ亜科: Cardiophorini ハナコメツキ族

*Dicronychus (Dicronychus) nothus* (CANDÈZE, 1865) オオハナコメツキ

日置川町安宅 (1 ex., 11.V.1993)

*Dicronychus (Displatynychus) adjutor adjutor* (CANDÈZE, 1873) アカアシハナコメツキ

田辺市元島 (2♂♂, 22.V.1997); すさみ町江須崎 (4 exs., 12.VI.1998)

*Cardiophorus pinguis* LEWIS, 1894 クロハナコメツキ

金屋町白馬山 (1♂, 11.V.1997); 龍神村護摩ノ壇山 (1♀, 24.VI.1997)

*Cardiophorus niponicus* LEWIS, 1894 ホソハナコメツキ

美山村八斗蒔峠 (1♂, 27.IV.1997)

*Paracardiophorus pullatus pullatus* (CANDÈZE, 1873) コハナコメツキ

すさみ町すさみ川原 (1♂, 15. X.1993)

*Paracardiophorus sequens sequens* (CANDÈZE, 1873) アカアシコハナコメツキ

有田市地ノ島 (1 ex., 22.IV.1984); 広川町鷹島 (4 exs., 9.V.1971); 印南町切目海岸 (1 ex., 12.I.1964)

(きしい たかし)

## ちょっと気になる甲虫の情報 (VI) --続編--

以前にこのシリーズで、アリスアトキリゴミムシ *Lachnoderma asperum* の興味ある観察を含む採集例が報告されてから、各地でも話題になる機会が増えたようである。しかし、蟻との共生? 関係は依然として謎のままである。(伊藤建夫)

## その後のアリスアトキリゴミムシの採集例

田中 勇

〒662-0874 西宮市六軒町 8-7

森 正人氏がアリスアトキリゴミムシを採集された大阪城北公園付近を、1998年12月 6日に訪れ、河川敷の環境を調べた。そこは伊丹空港への飛行機の着陸コースの真下に当たり、各種球技用グラウンド・釣サイト・菜園などに占められ、調査可能な空間が極めて狭かった。水際の高さ 1 m くらいの崖があるので、これにクワを入れてみた。上部 10 cm はアスファルト層となっており (その昔、河川工事用ダンプカーの通行のため敷かれたようである)、こぶし大のアスファルト塊を起こしたところ本種 1 頭が付いていた。アスファルトの下部の砂地には蟻の巣が多く見られ、表面に近い蟻のトンネルに潜んでいた本種 2 頭を見出すことができた。ただ、蟻との直接的触れ合いは見られなかった。

3日後 (12月 9日) 同地にて、葦の刈り跡に放置されていた潰れたダンボール箱をどけ、本種 2 頭ずつ 3 ペア (?) を見出したのをきっかけに、数個のダンボール箱下面、あるいは不燃ゴミを入れたビニール袋の接地面から本種を見出した。その下部の砂地を掘ると、越冬中の蟻が見られ、蟻との関係の強さをうかがわせた。小春日和の当日は、本種の動きも活発で見失うこともあった。葦原の中の葦の根際なども調べてみたが、ミズギワアトキリゴミムシしか採れず、本種は発見できなかった。調査中に採集したその他の甲虫はヒメボソクビボソムシ、イグチケブカゴミムシ、クロスジチャイロテントウ、クロオビケシマキムシであった。(たなか いさむ)

## 石垣島で採集された日本未記録属のオオキノコムシ

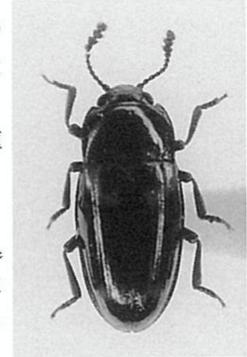
芦田 久

〒616-8182 京都市右京区太秦北路町8-3-406

石垣島で採集された日本未記録のオオキノコムシ科甲虫を所有しているの  
で、報告する。本個体は、体長5.2mm、体幅2.3mmで、台湾から記載された  
*Episcaphula matsumurai* (CHŪJŌ, 1941)に類似するが、上翅の斑紋が縮小化する  
点、体色がやや淡色である点など、原記載に符合しない部分もあるので、種  
の決定は今後の検討にゆだねたい。

*Episcaphula* sp. 1ex., 沖縄県石垣島オモト岳, 3.IV.1994, 永野篤弘 採集 (写真)

本個体を採集された永野氏によると、カミキリムシの材を採集して持ち込  
んだテントの中をはっていたとのことである。おそらく材そのものか、材に  
生えたキノコに付着していたものと考えられる。末筆ながら、標本を恵与さ  
れた永野氏、文献等でお世話になった大澤省三博士に感謝の意を表する。

*Episcaphula* sp.

(あしだ ひさし)

## 参考文献

CHŪJŌ, M., 1941. *Mushi, Fukuoka*, 13: 84-92.  
CHŪJŌ, M. and M. T. CHŪJŌ, 1988. *Esakia, Kyushu Univ. Publ. Ent.*, (26): 139-185.

## 虫屋の広場 (20)

## 地域別総合甲虫目録 [VI]

## ◎区市町村単位目録・小地域目録 (その3)

## 01. 山梨県韮崎市

水野弘造・細田倅市(1999), 鳳凰山産甲虫類目録(II)-1991年版への追加と訂正-, 関西甲虫談話会  
資料, (14), 1-35. [+392種], [119科, 2460種] (合計)

## 02. 熊本県上村

城戸克弥・小田正明 (1998), 熊本県上村白髪岳で採集した甲虫類(3), *KORASANA*, (66), 61-72.  
pl. [+136種], [280種] (合計)

## 03. 福岡県飯塚市

山脇好之(1998), 笠置山(飯塚市)の鞘翅目目録(16), *Kasagi*, (8), 109-122. [502種],[1412種] (合計)

## 04. 福島県西郷村

水野谷昭三(1998), 中通り南部山地の甲虫について, *ふくしまの虫*, (16), 39-45. [41科, 147種]

## 05. 島根県木次町

近木英哉(1997), 木次町尺の内公園周辺の昆虫相(1993-1996年), ホシザキグリーン財団研究報告,  
(1), 43-52. コウチュウ目: 50-51. [28科, 114種]

## 06. 神奈川県大磯町

大磯町(1996-1997), 「大磯町史 9, 別編・自然」「自然データ集」. 甲虫類: 高橋和弘; 464-  
530. ('96). 99-144. ('97), [81科, 1035種]

## 07. 山形県酒田市

桜井俊一・岡部光一(1995), 山形県飛鳥産昆虫目録, 出羽の自然, (1), 1-38. コウチュウ目: 13-  
29. [42科, 314種]

08. 和歌山県海南市  
 的場 績(1995), 春日の森の昆虫, 「和歌山県海南市春日の森調査報告書」(海南市教育会, 132 pp.), 100-123. 甲虫目:109-120. [215種]
09. 青森県鮭ヶ沢町  
 青森県立郷土館(1991), 赤石川流域の自然, 青森県立郷土館調査報告, (28)自然-3.昆虫:下山健作ら(5名); 71-176. コウチュウ目: 88-146. [81科, 992種]
10. 長野県塩尻市  
 塩尻市誌編纂委員会(1991), 「塩尻市誌, I.自然」(塩尻市, 1004pp.), 動物目録:吉田利男ら;791-872. 鞘翅目: 832-851. [29科, 323種]
11. 東京都板橋区  
 西村正賢・武田雅志(1991), 鞘翅目, 「板橋区昆虫類等実態調査(II)」(板橋区, 186pp.), 63-119. [+102種], [72科, 755種] (合計)
12. 千葉県富山町  
 川辺 湛(1990), 富山の小動物調査報告, 「南房総地域自然環境保全基礎調査報告書」, 106-120. 鞘翅目:111-115, [45科, 400種]

◎複数市町村を包含するやや広い地域の目録

01. 北海道北部・中央部  
 北海道環境科学研究センター(1994), 「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書, 道北圏域17地域, 道央圏域2地域”, 258pp. 昆虫:松本英明・堀繁久.
- a. イソサヌプリ[0種], b. 岩尾内湖周辺[0種], c. 猿払川湿原[22科, 120種], d. 知駒岳周辺[16科, 57種], e. 宗谷岬周辺[29科, 93種], f. 知恵文沼[0種], g. 天塩川河跡湖群[15科, 40種], h. 天塩川下流域[50科, 244種], i. 天狗山周辺[0種], j. 函岳周辺[18科, 50種], k. パンケ山ペンケ山[0種], l. 美深峠周辺[0種], m. 北大天塩・中川演習林[0種], n. ポロヌプリ周辺[21科, 71種], o. ポロ沼周辺[0種], p. 松音知岳・敏音知岳[26科, 89種], q. 峰岡山林[16科, 55種], r. 昆布岳[0種], s. 白鳥山[3科, 15種]. (水野弘造)

## 虫屋の広場 (21)

### ハネカクシ談話会関西支部第三回例会の報告

表記の例会が2月28日(日), 大阪市立自然史博物館で開催された。当日の話題提供は, 伊藤建夫と水野弘造で, 伊藤はハネカクシ最近のトピックスとして『アリと共生?するハネカクシ(その他)甲虫のトラップ』の紹介(丸山宗利氏発想「ハネカクシ談話会ニュース」No.7より), 『ハネカクシの海流移動および人為的移動について(Philonthus属とCafius属)』など, 水野からは『府県別甲虫リストに占めるハネカクシ類の種類・割合』として, リストに占めるハネカクシ科甲虫群の割合とリストの充実度との相関性?についての話が出された。その後, 参加者12名から一人一話があり, それぞれ豊富な話題が披露された。四国でのトラップ採集の結果, 蟻の巣のアリヅカムシの生態, 海浜での甲虫採集の結果, 畑の野菜屑から珍しいハネカクシ, 千葉での生物地理学に関するシンポジウム, 洞窟および地中のトラップ, 便利なウエアラブル型?天眼鏡などなどで, なかでも台所の水切りを改造した二段式落ち葉篩には一同感嘆しきりであった。散会後は, 例によって有志で懇親会がもたれた。(伊藤建夫)

## 会 報

## 急 告

## 中根猛彦博士逝去

中根猛彦博士が5月26日に急逝された、との訃報に接しました。謹んでお悔やみ申し上げます。亡くなられる直前まで標本を見ておられ、お元気だったそうです。

中根先生は戦後日本の甲虫学界のリーダーとして活躍され、記載された甲虫の種類数、著述文献量、手掛けられた分類群の多彩さ等々いずれを取上げても超人的な活躍でした。本学会に対しては、戦後の混乱期に、故大倉正文(初代会長)、故林 匡夫(二代会長)、故後藤光男、河野洋らの諸氏と共に学会設立に尽力され、本学会の今日ある礎を固めていただきました。本誌『ねじればね』も先生の発案になる題名であると、先生ご本人から承りました。関西から離れられた後は、本学会に直接の関与はされませんでした。後輩の指導などを通じてさまざまな形で寄与されました。ここに深く感謝の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。(水野弘造)

## 4月例会(1999年)の報告

本会の1999年度4月例会が4月11日、大阪市立自然史博物館で開かれ、初宿が「ヨーロッパの博物館を訪ねて」と題して話題提供をした。これは2月21日から3月28日の約5週間にわたり、ロンドン自然史博物館、パリ国立自然史博物館、ドレスデン動物学博物館の3館を訪問し、標本調査を中心に視察を行ったもようの報告である。旅費は東京の藤原ナチュラルヒストリー振興財団の援助を得、所属先の大阪市教育委員会からも正式な海外出張として派遣されたものである。

当日はデジタルカメラによる映像を中心に、各館の標本室の様子や滞在中の相手スタッフとのエピソードなどを交えての話であった。いずれ本誌上でドレスデンを中心に詳細な紹介を行う予定にしている。最後に恒例の一人一話を行ったあと、有志による懇親会も天王寺で開かれた。

なお、講演に先立つ会務報告において、谷角素彦氏に『昆虫学評論』『ねじればね』の編集にお力添えいただけることになったとの報告があった。

出席者 (アルファベット順)

芦田 久 林 靖彦 伊藤 昇 伊藤建夫 河上康子 北山健司 水野弘造 野村英世 大塚 勲 大築正弘  
奥田好秀 斎藤琢巳 佐々治寛之 塩崎明生 初宿成彦 田中 勇 田中昭太郎 谷角素彦 八木正道

(初宿成彦)

## 採集会(1999年)の案内

7月10～11日、奈良県和佐又山で開催致します。今年も日本鞘翅学会との合同採集会です。関東方面からも多数参加される予定ですので、この機会に交流を深めては如何でしょうか。事前に人数を予約いたしますので、参加される方は7月1日までに学会運営委員の水野弘造までお知らせ下さい。車の手配が必要な方も水野まで、お知らせ下さい。

水野弘造 住所：〒611-0002 京都府宇治市木幡熊小路 19-35

電話およびファクシミリ：0774-32-4929

E-mail：kzmizuno@oak.ocn.ne.jp

(運営委員会)

## お知らせとお願い

『昆虫学評論』54巻2号あるいは『ねじればね』(1999年末)を故林 匡夫会長の追悼の号として、追悼文・著作目録・献名リスト及び論文等の掲載を計画しております。ご意見をお寄せいただくとともに、追悼文と論文を募集致しますので奮って投稿の程よろしくお願い致します。(運営委員会)

発行：1999. 6.15 日本甲虫学会  
(本部) 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付  
振替口座: 00990-8-39672 URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>  
Tel: 06-6697-6221 Fax: 06-6697-6225 E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp

昆虫学評論原稿送付先 (英文)  
〒666-0116 川西市水明台 3-1-73 林 靖彦 Tel. 0727-93-3712

ねじればね原稿送付先 (和文)  
〒611-0002 宇治市木幡熊小路 19-35 水野弘造 Tel.(Fax) 0774-32-4929  
〒614-8371 八幡市男山雄徳 8 E7-303 伊藤建夫 Tel.(Fax) 075-983-3491

入会及び会費問合せ先 (年会費 5,000 円, 入会金は不要)  
〒590-0144 堺市赤坂台 1-18-5 野村英世 Tel. 0722-98-4066